



# 函館北ロータリークラブ会報

マット・カパラス 国際ロータリー会長テーマ

## Rotary brings hope

ロータリーは希望をもたらす



7-5

楸法華の海 椎谷 龍彦 会員

《第1137回例会》 第31回 1月28日(水)

### 本日のプログラム

青函博について

青函博実行委員会事務局 営業課長 宮 腰 嘉 之 氏

★会 長 沢田 鶴造

★幹 事 石橋 輝男

氏名	職名	住所	電話番号
木下 浩	会長	青函博実行委員会事務局	
宮腰 嘉之	幹事	青函博実行委員会事務局	
石橋 輝男	幹事	青函博実行委員会事務局	
...	...	...	...

本日の例会は、マット・カパラス会長のテーマ「Rotary brings hope」を基に、青函博について話し合いました。青函博は、函館と青森を結ぶ重要な交通手段であり、地域の発展に大きく貢献しています。また、青函博の運営には、多くのボランティアが参加しており、その熱意と努力が、青函博の成功を支えています。最後に、青函博の今後の展望について話し合いました。

1986～1987

〈第1136回例会〉第30回

## 1月21日の記録

◎司 会 沢田 鶴造 会長 ◎齊 唱 それでこそロータリー

◎ピジター 小樽南R.C.小松 清君、 函館R.C.小林 一三君他3名、  
函館東R.C.梅本 邦雄君他2名、 函館亀田R.C.小島 悦郎君、  
函館五稜郭R.C.柳沢 勝君他2名◎ゲ ス ト 函館青年会議所 理事長 新谷 順次氏、 専務理事 外崎 静二氏、  
米山奨学生 謝 寛永君

◎会長報告 沢田 鶴造 会長

○台北・東北R.C.の5周年記念への親善訪問が2月22日に決まり、ぜひおいで  
下さいとの招待を受けてまいります。2月21日に出発して、2月25日に帰る  
スケジュールで調整しております。会員の皆さんへの出欠の問い合わせを、昨日  
(1月20日)往復ハガキで発送いたしました。パスポートをお持ちでない方は、査証の取得等に時間を要したりしますので、  
1月27日までに申し込みをお願い致します。

○1月17日に、10・11分区の会長・幹事会を開催いたしました。

I.G.F.が、2月15日、森R.C.のホストで行なわれることになりました。点  
鐘が12時30分です。これに参加する場合、函館市内5クラブで、バスをチ  
ャーターして行こうということになっております。準備の都合もあるので、出席の有無を早急に知らせて欲しいということが、  
R.C.の方からきております。出欠を早急に出していただきたいと思ひます。○2月23日(月)に市内合同例会を行うことになりました。場所は五島軒本店で午  
後6時からです。講師としてNHK放送局主幹の樋口氏を迎えて、講演を行うことになっており  
ます。

◎幹事報告 石橋 輝男 幹事

○前回もお話した、ラ・サール高校のインターアクトへのカレンダーの締切がせ  
まっております。今月末までです。カレンダーをお持ちの方はよろしくお願ひ  
致します。

○他クラブの例会変更は次のとおりです。

函館 R.C. 1月22日の例会は夜間例会に変更になっております。

五稜郭 R.C. 1月30日の例会は31日の夜間例会に変更になっております。  
場所は竜吟寺です。

○室蘭北R.C.より記念誌が届いております。回覧いたしますので、御覧下さい。

◎親睦委員会 三沢 洋大 副委員長

ニコニコB o x 投入報告

沢田 会 長……本日は、ただなんとなく。

藤井 会 員……ホームクラブ欠席がちの御詫び。

安藤(勝) 会 員……B o x に協力いたします。

佐々木(椎) 会 員……初孫の誕生のため。

加藤 会 員……B o x に協力いたします。

◎卓話「青年会議所活動について」

函館青年会議所 理事長 新谷 順次 氏

皆さん今日は。只今御紹介いただきました、社団法人 函館青年会議所の  
1987年度、第37代理事長を務めることになりました新谷 順次と申します。  
何分にもこのような会での講話は初めてでありますので、非常に緊張して  
おります。ましてや、函館経済界を代表する皆さんのロータリー・クラブで講話  
するには、役不足ではないかと思っております。先ほど私を紹介していただ  
いた南木先輩のたつての話でもありますので、恥を先輩に背負っていただくとい  
うことで、この講話の話を受けました。

南木先輩とは、昭和54年、青年会議所へ同期入会いたしました。すでに先

輩が青年会議所の理事長をしており、同期から2人目の理事長ということになります。このようなことは歴代にありませんでした。

青年会議所の理事長の任期は、1月1日から12月31日までの1年間ですが、前年の9月に次年度の理事長予定者が決定され、その時期から次年度の活動が実質的に動き出すこととなります。その点を考えると、私の任期も、もう半分に来たのかなと思っております。

先般、1月17日に、私の関連した議案を提出し承認されたところです。このほっとしたところに、先輩からの本日の講話の話が舞い込んでまいりました。

せったくの時間ですので、青年会議所とはどのような集団で、どのようなことをしているのか、ということについてお話をしてみたいと思います。

私は、昭和22年1月14日生れで、ちょうど40歳になったところです。青年会議所の規約からいうと、ラスト・イヤー（最終年齢）ということになります。しかし、理事長職にあった者は、次の理事長に対して、1年間アドバイザーの役を課さなければなりません。したがって、入会のお誘いを受けているロータリー・クラブへの加入は1年先送りということになります。

理事長の職についた今、とりあえず心配なのは、この厳しい経済環境の中で私自身の商売が持ちこたえるかなということ。とにかく頑張りたいと思っております。青年会議所J.Cや社会に役立つ人間になるよう、自己啓発に努めていきたいと思っております。そのうえで、ロータリー・クラブへ入れていただきたいと願っております。

私の商売は、昭和16年に、父が牛乳販売店を函館で開業したのが始まりです。その当時は、飲み物としては、ラムネかサイダーか牛乳しかなかったわけ。家族があれば牛乳と新聞は必ず取るものと考えられておりました。したがって商売の方も、お客さんから注文をいただく強気の商売でした。9割9分が宅配でした。

それから40年経って、私がお店を引き継ぐことになりました。その頃から、私たちの業界も厳しいものになってきました。地元の牛乳販売店や北連関係の牛乳店が進出して来るようになりました。セルフ・サービスのコンビニ

ンス・ストアやスーパーが入ってきて、ほとんどの牛乳が安売り合戦に入りました。そのため、経営も非常に厳しくなりました。

こうした流れを見て、将来は牛乳の宅配もなくなり、牛乳だけでは食べて行けなくなると考え、扱う商品の数も増やしました。また、昭和49年には、大野の方に支店も出しました。それと同時に、雪印からアイスクリームの特約店ライセンスを、井村屋からアンマン・肉マンの特約店ライセンスを取りました。以上の3種類が私の商売の主力で、そのおかげで青年会議所J.Cの活動もできるわけです。

ところで、青年会議所J.Cに入ってよかったと思うことは、いろいろな情報が非常に早く伝わってくることです。青年が動く中から、生きた情報が伝わってくることです。

青年会議所は、自費で動く組織です。会費としては、年会費9万円、その他負担金2~3万円だけです。ここから、月2回の例会の食事費等すべてをまかなうこととなります。

そうした中で一番問題になっているのは、固定費が年々上昇していることです。したがって、私たちは、今日ごちそうになったロータリー・クラブの昼食のような立派なものを出せません。昼食は、カレーライスとたまに肉がつくといい程度です。ただ、会場だけは、皆さんとの付き合いを考えて、国際ホテル等の立派な所を維持するように努めております。しかし、若者が議論する場として、もっと別な所はないだろうか、ということが徐々に伝わってきております。

本年も、青年会議所の予算を編成するに当たっては、厳しいものがありました。そうした中で、本年も、会員数200名への拡大を目標として掲げました。現在、162名の会員がおりますが、今年から先輩メンバーの数が175名と、現役をオーバーする状況となりました。「数は力なり」という言葉もありますが、少なくとも現役の会員数が先輩メンバーを上回るようにしたいと考えております。

本日は、青年会議所を紹介するパンフレットを持ってきておりますが、皆さ

んの知り合いの中に有能な若い人がありましたら、ぜひ紹介していただきたいと思ひます。

さて、私は今、青年会議所で何をしているのかということになります。

現在、青年会議所は全国に735あります。北海道は52で、約4,000名の若いメンバーが活躍しています。

先般、横路知事との話し合いの場が持たれましたが、地域経済界が手を取り合せて、若い人たちが活躍している街は、やはり活性化があるという話になりました。青年会議所のメンバーにも中途退会等による出入はありますが、とにかく頑張りたいと思ひます。

ところで、この函館青年会議所のメンバーの中から、北海道地区青年会議所へ森川順次君を、また日本青年会議所に国立金助君を輩出することになりました。歴代青年会議所37年の歴史の中で、一度に常任理事を2名も出すのは、函館会議所だけではないかと思ひております。これも、初代の三本木博会長から始めて36年間、歴代の会長さんの努力の成果が、今日の結果を生んだのではないかと思ひております。

2人の常任理事を出しましたので、挨拶のため、私は正月2日から関係先を訪問してまいりました。先日も、会頭の出ている横浜青年会議所へも挨拶してまいりました。これらは、ほとんど自費でまかなっており、いつまで続くのかなと思ひております。これも、こうした触れ合いの中から情報を得、それを地域にフィードバックして役に立てる、あるいは自己啓発の資とする、ということに頑張っているわけです。こうすることによって、私の40歳という歳を有意義に過ごせればと思ひております。

昨年、北海道青年会議所は、リ・デスカバリー号という事業をさせていただきました。私は、この事業で初めて、北海道を船に乗って一周いたしました。北方4島も目のあたりに見てまいりました。

この事業は、約2億円ほどかかった事業ですが、青函局もこれに習って、連絡船を使つての北海道一周の事業を実施されました。

このリ・デスカバリー号の事業に対しては、日本青年会議所および総務庁よ

り努力賞をいただきました。

更に昨年は、松前船“辰悦丸”を江差・函館の地に持ってくる事業に成功いたしました。これは、松山青年会議所の一人の若者が、たまたまテレビで辰悦丸を見て、これを江差の地まで持って来たいという夢を描き、NHKとタイアップして実現したものです。日本列島は、どちらかという太平洋側に日が当たっているような感じですが、このイベントによって、日本海側も一段と輝きを帯びたような気がいたします。

これを計画した青年は36歳の若さです。この努力によって、松山青年会議所は、創立たった4年目にして、日本青年会議所会頭賞の栄誉に輝きました。

さて、函館青年会議所は何をするのだとよく問われますが、私たちは次のような取り組みをしております。

まず第一に自己開発、第二に社会開発、という理念を持って青年会議所の事業に取り組んでいます。よく、現在のマスコミを主体とした情報化社会では、マスコミに乗らない事業は事業でないということがいわれますが、私は、必ずしもそうでなくてもよいと思ひております。

私は、あえて、マスコミ主体のそのような考えに挑戦して、必ずしもイベントに走らなくてもよいと思ひております。きちっとした政策や理念を持って事業に取り組んでいけば、いつかはすばらしい事業につながるのだということで青年会議所のメンバーと話合っております。

皆さんのお手元に、私の所信を配らせてもらっております。これについて若干話をさせていただきたいと思ひます。

#### 「1987年度 理事長所信」 理事長 新谷 順次

社会情勢がめまぐるしく変化する今日、1980年代の後半は混迷の時代が予想される私達の地域社会も大きく変わろうとしております。

急速な情報化社会と技術革新により地域間競争が始まっている現在、地域は特性を生かし独自性を持った総合的な政策が急務であり、地域の新時代をつくるためにも青年の英知と行動力が求められてきました。

そのためにも新しい時代感覚と新鮮な発想と自ら青年経済人としての認識をもち、21世紀という未知の時代に生き残れるたくましい郷土のつくるためあらゆる課題に挑戦する必要があると考えます。

今、函館青年会議所に何が必要か、ということが問われていますが、新しい未知の21世紀に向けて、まさに青年が行動しなければならない時であると考えます。

ところで、道内の各地を回っていると、「函館はいいよ。函館は、観光資源もあるし、すばらしい街だ」とよく云われます。しかし、私は、函館に住んでいる人たちが本当にそう思っているだろうか、と考えてしまいます。

函館は、経済事情も安定し、住みやすい街でしょうか。よく考えてみると、いろいろと疑問な面もあるのではないかと思います。確かに、夕張や室蘭などの街から見れば、函館は恵まれていると思います。もともと函館は、1次産業2次産業で栄えた街です。しかし、今や、1次産業、2次産業は厳しい状況にあります。

こうした中で、昭和63年には青函博が開かれますが、こうした行事には、青年会議所も大いに参加すべきではないかと考えております。

地域の特性を生かした長期的・短期的な施策の策定や推進については、所信でも触れさせていただきましたが、青年会議所の事業はともすればお祭りなどに走りがちです。たった1年間だけの事業では、その時だけ市民に共感を得ても長続きしなければ本当の事業とは云えないのではないかと考えています。

そうした観点から、青年会議所の事業の見直しを行っております。

市民大リクリエーション大会は、ここに出席しておられる飯田先輩が青年会議所の事業として発足させられました。この事業も11年間も続いてまいりました。しかし、市の財政が逼迫している現状を考えた場合、助成金をもらいながらの事業では、青年会議所の事業にそぐわないのではないかと考え、見直すことにいたしました。

今や、自らの力でやれる事業を見い出して行く時代に入ったのではないかと

思います。

そんなわけで、市民大リクリエーション大会の助成金は辞退することにいたしました。同時に、青年の船の助成金も辞退することにいたしました。これは函館青年会議所にとって劇的な出来事です。

また、本年度より初めて、女性を青年会議所に入会させてもらいました。これについては、36年に亘る長い青年会議所の伝統を破るのではないかと、先輩からお叱りも受けました。

しかし、私は、敢えてこれを認めさせていただきました。今や、男女平等の時代です。全国各地の青年会議所でも女性が多数進出してきております。また女性にも立派な経営者がおられます。

これも函館青年会議所にとっては、画期的な出来事ではないかと思えます。

昨年度の山本理事長は、コンベンション・シティ構想というものを取り上げました。実は、函館青年会議所は、昭和64～65年に青年会議所の全国大会の誘致を考えております。その誘致のためにも、全国の青年会議所メンバーを入れる1万人規模の会議場——コンベンション・センター——を作りたいというのが我々の希望です。

現在、全国大会の会場の立候補をしているのは、福岡、豊橋、そして函館です。昨年は、高知と福岡が誘致を争って、市長や商工会議所会頭の応援が入った高知に軍配が上がりました。今年も、福岡、豊橋と函館が激しく争うことになると思えます。

この全国大会の誘致は、単にイベントとしてではなく、以後の地域の活性化に結びつけるという観点から取り組むものです。市長さんや商工会議所の会頭さんの応援を得て、是非誘致したいと考えております。ロータリー・クラブの皆さんの絶大なる御支援をお願いしたいと思います。

特に、コンベンション・センターについては、青函博事務局へも働きかけをしております。青函博の施設の一部を、青函博後にも利用できないかなと考えております。

また昨年は、国際青年年ということで、いろいろなイベントが行われました

が、これは、単なるイベントではなく、新しい21世紀に向けて国際性豊かな青年を作るということに主眼が置かれたものです。本年も引き続き、これに関連したイベントを大沼で計画しております。各国の大使館、外交官に働きかけており、これも一大事業になるのではないかと考えております。この事業の成功に向けても、国際的組織であるロータリークラブの皆さんの御協力をお願いしたいと思っております。担当から直接にお願いに上がるかもしれませんが、よろしく願い致します。

以上、青年会議所の活動についてお話をさせていただきましたが、新しい時代に向かって、若者は一生懸命汗を流しております。我々の郷土“函館”の地をよくするために皆さんと手を取り合って頑張りたいと思います。おじいさんから孫の代まで、3世代がゆったりとして暮らせるような街づくりをしたいと思っております。今後ともよろしく御指導をお願い致します。

これで私の話を終わります。ありがとうございました。

### ◎ 出席報告

会 員 数	65 名	出 席 率	函 館 北 1 月 1 4 日	93.10 %
出 席 席	32 名		函 館 東 1 月 1 3 日	93.67 %
欠 席 席	33 名		函 館 1 月 8 日	96.33 %
他クラブ出席	22 名		函館五稜郭 1 月 9 日	100.00 %
出席合計	54 名		函館亀田 1 月 1 2 日	85.42 %
除 外 者	7 名			

次回・2月4日  
プログラム

「 函 館 今 昔 」

(株)五島軒 代表取締役会長 若山 徳次郎 氏

例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 例会場：函 館 国 際 ホ テ ル  
事務所：函館市大手町5-10 日魯ビル3F TEL (0138) 23-3870

第251地区 第11分区



1986～1987

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ会報

マット・カパラス 国際ロータリー会長テーマ

## Rotary brings hope

ロータリーは希望をもたらす



7-5  
巖法華の海 椎谷 龍彦 会員

《第1138回例会》 第 32 回 2月4日(水)

本日のプログラム

「 函 館 今 昔 」

(株)五島軒 代表取締役会長 若山徳次郎 氏

★会 長 沢田 鶴造 ★幹 事 石橋 輝男